

第1学年 音楽科学習指導案

日 時 平成28年11月9日(水)

生 徒 1年4組

男子19名 女子16名 計35名

場 所 第2音楽室

指導者 鎌田 舞美

1 題材名 箏の響きに親しもう

教材 「さくら変奏曲」「さくらさくら」

2 指導内容

本題材は学習指導要領〔第1学年〕のA表現(2)器楽の事項イ「楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること」から設定する。

また、共通事項のうち音色、旋律を設定する。

3 題材の目標

- (1) 箏の音色や独特な奏法、平調子による旋律に関心をもち、箏の基礎的な奏法などを身につけて演奏する学習に主体的に取り組む。
- (2) 箏の音色や独特な奏法、平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら箏の音色の特徴を感じ取り、どのように演奏するか思いや意図をもつ。
- (3) 箏の音色や独特な奏法、平調子による旋律をいかして演奏するための基礎的な奏法を身につけて演奏する。

4 題材について

本題材は、箏の奏法を試したり聴いたりして、知覚・感受を深めながら箏の音色の特徴を捉え、基礎的な奏法を身につけ、弾き方による音色の変化や、平調子による旋律を意識して演奏することで箏の響きに親しむことをねらいとしている。

「さくら変奏曲」は「さくらさくら」を主題として、7つの変奏が演奏される。「さくらさくら」は生徒にとっても親しみやすい曲であるので、箏の音色に親しませるとともに、その演奏なかで使われている箏の奏法であるかき爪や合せ爪、左手の押し手による音色の変化にも興味をもたせたい。

「さくらさくら」は右手の奏法で大切となる薬指の移動が、親指を停止した状態で行えるため平易に演奏でき、箏の演奏の導入には適切な教材である。音を出したときの音色のよさを気づかせながら演奏させていくとともに、平調子による旋律のもつ雰囲気を感じとり、箏らしい繊細で美しい表現ができるようにしたい。

生徒はこれまで、音色や旋律に気をつけて歌ったり、鑑賞したりする学習をおこなってきた。感じたことを言葉では表現できるが、教師の助言による気づきが多い。音色についての意識が薄く、そこからくるイメージを感じとる力は不足している。今回の箏の学習を行うことで、奏法による音色の変化を感じ取らせることで、音色に対する意識を高め箏の雰囲気を醸し出した音色で演奏させたい。

また、授業で日本古曲を学習することと、器楽学習は中学校に入って初めての学習となるので、楽器を演奏していく中で、多様な音色があることに気づかせながら、箏の奏

法の変化による音色の違いや、平調子の醸し出す雰囲気を感じさせながら箏の魅力に親しませたい。

指導にあたっては、①学習全体や本時についての時間の流れを明確に示すこと【時間の構造化】②既習事項を用いて定着を図るとともに、全体でイメージを共有すること、グループでの演奏で互いの評価をシェアすること【スパイラル化・共有化】③小さな旋律で学習を続け、そのまとまりを積み重ねることによって、達成感をもって学習できるようにすること【スモールステップ化】④写真や拡大譜による視覚資料を用意し、視覚からの情報でも正しい姿勢を想起し、全体が周知しやすいようにすること【視覚化】を意識して進めていきたい。

第1時では、「さくら変奏曲」を聴き、箏の音色や平調子による旋律の特徴を感じるとともに、箏の独特な奏法による音色の変化を感じとらせながら、箏の基礎的な奏法について触れる。さらに、唱歌による箏の読譜をしていくことから、日本音楽に対する興味を高められるようにしていきたい。

第2時、第3時では、生田流の縦譜と平調子による5線譜の楽譜をもとに、箏の基礎的な奏法で「さくらさくら」を演奏する。箏の特徴をとらえた音楽表現をするために必要な箏の基礎的な奏法を身につけ、箏の特徴をとらえた音色で演奏できるようにしたい。

第4時では箏の独特な奏法をいれることで、自分たちが感じ取った音色や平調子による旋律の雰囲気を表現できるように、思いや意図をもって演奏に取り組ませたい。

5 題材の評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能
題材の評価規準	① 箏の音色や奏法に関心をもち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 箏の音色、平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら「さくら」の曲想を感じとって、箏の特徴をとらえた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて、思いや意図をもっている。	① 箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な箏の基礎的な奏法、読譜の仕方などの技法を身につけて演奏している

6 指導と評価の計画

時	学習活動	評価規準との関連	評価方法等
1	<p>○箏曲を聴いたり奏法を試したりして箏の音色、平調子による旋律を知覚・感受する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏曲「さくら変奏曲」を聴き箏の音色、旋律などについて気がついたことをワークシートに書く ・学級全体で気づきを共有する ・教師の実演や説明により箏の特徴や奏法、平調子について知る ・教科書を使って身体の姿勢や爪の付け方、弦の弾き方など箏の基礎的な奏法を知る <p>○箏に触れてみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の練習曲を用いながら、正しい奏法を学習する ・弾き方や指を置く場所によって音色に違いがあることを感じとる <p>○唱歌による伝承法を知り箏の楽譜の見方を知る</p>	<p>観点1-①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・観察 ・自己評価カード
2 (本時) ・ 3	<p>○ 箏の基礎的な奏法を身につけ「さくらさくら」を演奏する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の奏法の基礎を確認する ・さくらさくらの冒頭部分を教師の演奏で聴く ・グループで「さくらさくら」を練習し、お互いの姿勢や音色をチェックしあう <p>○箏の音色や奏法に関心をもって左手や右手の奏法について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流し爪、かき爪、合せ爪、押し手について知り、練習する <p>○「さくらさくら」の演奏にとりくむ</p>	<p>観点3-①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・自己評価カード

<p>4</p>	<p>○これまでの学習をいかし流し爪やかき爪、合せ爪、押し手をいれながら「さくらさくら」を演奏する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が使える奏法をいれる部分を考える ・グループで聴きあい、前時の学習で行った合せ爪や流し爪、押し手などを入れて「さくらさくら」を演奏する <p>○表現したい思いや意図をもって演奏する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じた雰囲気表現するために演奏を工夫し、助言しあいながら演奏を高める 	<p>観点1-① 観点2-①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・自己評価カード
----------	---	------------------------	---

7 指導と評価の展開

(1) 本時の目標

- ・ 箏の楽譜について知り、基本的な奏法を身につけながら、箏の音色や奏法に関心をもって「さくらさくら」を演奏する

(2) 展開

	ねらい 学習活動	評価規準との関連	○ 留意事項 ☆ 評価 □UD の視点	資料教具
導 入 5 分	1 前時の学習内容を確認する。 ・ 箏の演奏を聴いたり、箏に触れることでもった箏の音色に対するイメージを全体で共有する		○箏の学習についての全体の見通し、本時の見通しを事前に示しておく □時間の構造化 ・ 生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにする ○前時のワークシートを利用して箏に対して感受したイメージを想起させる □スパイラル化、共有化 既習事項を用いて箏の音色について想起させるとともに、箏の音色について全体でイメージを共有することで、箏の音色についての感受を深める	授業の流れ ワークシートの拡大
	2 課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">箏の音色の特徴を感じながら奏法を生かして演奏しよう。</div>			

<p>3、箏の基礎を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座り方や姿勢、爪のつけ方、弾き方について全体で確認する <p>4、さくらさくらを練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の見方を復習し、平調子による箏の弦名をワークシートに書く ・さくらさくらの冒頭を教師の範奏で視聴する ・冒頭部分の指の運びをグループ全員、練習プリントで練習する ・グループで練習する 		<p>観点3-①</p>	<p>○演奏の基礎を身につける</p> <p>□視覚化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、写真をもちいて正しい姿勢などを想起しやすくする <p>☆観察</p> <p>○基本がおろそかにならないように小さな旋律に区切り、薬指を置く場所やタイミングを指導する</p> <p>□スモールステップ化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平調子の旋律を小さなまとまりを積み重ね「できた」という達成感を感じさせると共に、次のステップへの意欲を持たせる <p>□視覚化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の練習プリントと同じ箏の拡大写真を黒板に掲示し、指を置く場所をゆっくり何度も確認できるようにする <p>○平調子の特徴をとらえて5線譜を用いることで、音色に注目した学習ができるようにする</p> <p>□視覚化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦譜を5線譜と比較することで読譜をしやすくする。 ・拡大譜を用意し、全体への周知をしやすくする <p>○グループでのチェックシートを用意し、自分の練習の意識を高め、自分の演奏にも生かせるようにする</p> <p>□共有化</p> <p>仲間の演奏を評価し、良い点を自分の演奏に生かせるようにする</p> <p>☆観察・ワークシート</p> <p>☆観察、ワークシート</p>	<p>写真</p> <p>ワークシート</p> <p>拡大縦譜</p> <p>拡大5線譜</p> <p>練習プリント</p>
<p>展 開</p> <p>35 分</p>				

終末5分	5 学習を振り返り、次時の内容を知る。		○ 学習を通して分かったことや感じたこと等を発表させる。	自己評価カード
------	---------------------	--	------------------------------	---------

評価規準	十分満足 (A)	努力を要する児童への支援 (C)	評価方法
【観点3-①】 箏の特徴をとらえた音色で演奏するための、基礎的な奏法を身につけ「さくら」の演奏をしている。	「さくら」の旋律を、箏の特徴をとらえた音色で、的確に演奏するための基礎的な奏法を身につけ、流し爪やかき爪、合せ爪のような技法を取り入れ演奏することができる。	箏の弦に大きく番号のシールをはり、自分の親指がどの弦を弾こうとしているかをわかりやすくする。	観察 自己評価カード

8 板書計画

<p>課題 箏の音色の特徴を感じながら奏法を生かして演奏しよう。</p>	<p>箏の授業の全体計画</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>箏の音色や旋律について気づいたこと (前時ワークシートから)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>姿勢や親指の奏法の写真</p> </div> </div>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>平均律の音階</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>さくらさくら 拡大縦譜</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>さくらさくら 拡大5線譜</p> </div> </div>	